

私のオーストラリアでの 10 か月間は、言葉では言い表せないほど、刺激的で一生心に残るような体験でした。2011 年 3 月 4 日にオーストラリアへ旅立ち、着いた先は東オーストラリアのバンダバーグ、ブリスベンから北に車で 5 時間行った、サトウキビと美しいビーチで知られている田舎町でした。

当初の気持ちとしてはとにかく不安で、でも何が待ち受けているのか楽しみだったことを覚えています。そして最初の 2 か月半は、辛いことや悔しいことがたくさんあり、落ち込む日もありました。でも自分は大丈夫、この留学を成功させるのだ、という強い気持ちをずっと持っていました。今思うとあの時のあきらめなかった気持ちが私の留学生活を実りあるものとし、今の自分を作ったのだと思います。

3 か月程経つと英語にも慣れ、オーストラリアの文化も受け入れられるようになり、友達もたくさんできるようになりました。学校ではネットボールというスポーツチームに入りました。他の学校とプレイし、体育の授業では日本の 10 倍もあるような広い芝生のフィールドで、フットボールやホッケー、アーチェリーをしたことは、オーストラリアの文化を知る良い機会だったと思います。また、友達の家泊まりに行き、パーティーをしたり、ビーチに行き大騒ぎしたり、卒業式後のプロムのパーティーに参加して楽しんだことは私の一番の思い出です。ホストファミリーと休日一緒にテレビを見て、家のプールで泳ぎ、旅行に行き、フットボール観戦をしたことはいつまでも忘れないでしょう。彼らにはまた、たくさんのオーストラリアの文化や訛を教してもらいました。互いの文化を知り、分かり合えたことは本当に良かったです。

帰国して 1 年以上たった今でも、定期的に現地の友達やホストファミリーと連絡を取ります。自分にとって第二の故郷ができたことは素晴らしいことだと思います。特に 1 つ年上のホストシスターとはとても仲良くなり、今でもスカイプをして日本語を教えてあげたり、オーストラリアの近況を聞いたりします。日本で生活をしている今でも、あの現地の人々の温かい笑顔や、景色のきれいな町とサトウキビ畑を思い出し、また戻りたいなあと思います。

私の留学を振り返って言えることは、留学は楽しいことばかりではなく、落ち込むことや投げ出したくなるようなことがたくさんありますが、そのすべての経験をあきらめずにやり通すことで自分にとって経験がプラスとなり、留学してよかったと考えられるようになるということです。素晴らしい体験をこれからも大事にして、今後の自分に生かしていきたいです。



卒業後のパーティー



日本語の授業にて

私は2011年9月から2012年7月までの10か月間をイタリアのシチリア島のノートで過ごしました。ノートは美しい海に囲まれたシチリア島にあるとても小さな町です。バロック建築の町として世界遺産にも登録されています。そんな町で過ごせたのは今、考えると夢のような時間でした。

私がイタリアで一番苦労したのはやはり言語でした。日本でも少し勉強はして行ったにも関わらず、現地に来てみれば何も聞き取れず、何も喋れませんでした。しかし、それを乗り越えられたのは周りの人たちの励ましの言葉でした。AFSの他国からの留学生の友達と比べても、私はイタリア語が喋れないことに、落ち込み、心配することもよくあり、彼らに会うことを苦痛に思うことさえありました。しかし、友達やホストファミリー、学校の先生たちは、全くイタリア語とは異なった言語を話す私が、イタリア語でよく話せている、と言って勇気づけてくれました。その励ましに支えられ、一步ずつ自分のペースで頑張ればいい、ということをも自分に言い聞かせて、少しずつでも前進することができました。

私のホストファミリーは、お父さんお母さんと、同年代の3人の姉妹で、明るく温かな家族でした。それでも当初は、互いに違和感がありましたが、すこしずつ距離が縮まってきました。今ではホストシスター達は私のことを本当の姉妹、ホストマザーとホストファザーは4人目の娘として思っている、と言ってくれます。私にとってもイタリアの家族は大切な宝物です。

私のもう一つの大切な場所は学校でした。クラスメートたちはまさに私が想像していた明るくて陽気な南イタリア人達でした。彼らは、授業中はとても煩くて、先生と喧嘩を始めることも珍しくありませんが、いつも私のことを助け、思いやりの深い大切な仲間でした。先生達は授業ではいつも怒鳴っていて、驚きました。しかし、個々に接する先生たちは、とても親切で、私の為にイタリア語の授業をし、時には他のクラスメートと同じように厳しい指導をしてもらう事もありました。

コミュニケーション好きで、明るくて、生きることを愛するイタリア人と過ごして、私は物事をポジティブに考えてみるという事ができるようになりました。それが実際の色々な局面で私自身を支えました。

もう一つの家族、学校の友達、イタリアで出会った全ての人たち、食べ物、町の匂い…私はイタリアの全てに勇気付けられて、乗り越え、今、何にでも挑戦し、全力を尽くせば何でもできると思えるようになりました。



ホストファミリーと



シチリアの海で